

12 花切手の楽しみ わたしの場合 (1フレーム) 亀城雅子

わたしの収集のメインは、海外の方との実通カバー交換や、使用済切手の交換です。非郵趣家の方とのポストクロッシング（絵はがき送付）も楽しんでいます。また、即売会では100円から買えるカバーの山に手が止まりがちです。今回は「棚からひとつかみ」形式で、手持ちの気に入りのカバーと切手を並べてみました。企画に合わせてバラの花を多めに入れました。

13 植物を描いた普通切手—その外信使用例 (5) (2フレーム) 嘉ノ海暁子

植物を描いた普通切手の外信使用例を展示します。今回の料金期間は 1961 年 10 月 1 日から 1966 年 3 月 30 日の約 4 年 9 ヶ月で、第 2 次及び第 3 次動植物国宝図案切手に含まれる 55 円マリモ、500 円八つ橋図、6 円ナンテン、10 円ソメイヨシノを対象としました。高額面から低額面の切手がどのように外信便に使われたか、料金表を踏まえて紹介します。

14 世界の植物切手展 15 回の歩み (1フレーム) 植物切手研究会

2009 年に第 1 回を開催以来（コロナ禍で中止となった 2020、2021 年を除き）15 回の節目を迎えたことを記念して、その歩み＝展示活動の概要を、展示で作成使用した資料でお伝えします。展示の構成は、先ず本展の開催実績を表示、次いで FDC 全回分とポスター 5 回分を開催順に展示、参考に PR 用チラシを加えています。

なお、入場者総数は 3,812 人（1 回平均 272 人）となっています。

◆ 小型印デザインについて 澤口 尚子

企画展示に因み、モチーフはハマナス (*Rosa rugosa*) です。海岸の砂地などに自生するバラ科のハマナスは、皇后陛下雅子さまのお印となっており、6～7 月に 6～9 センチの深紫紅色の美しい花を付けます。根は植物染料として、実はジャムにも利用されます。8～9 月に熟す実の授粉を助けるコアオハナムグリ (*Oxycetonia jucunda*) (体長 10～15 ミリほど) を添えました。
(小型印の使用は 6/27 のみ)



小型印申請図

第15回 世界の植物切手展



JPS植物切手研究会のご案内

定例会：毎月第4日曜日 14:40～16:10

切手の博物館 3F 会議室

運営負担金(年会費)：2,000円

連絡先：嘉ノ海暁子(代表) TEL 03(5951)3311 (JPS 事務局)

Mail: skanomi@rainbow.plala.or.jp



会期：2026. 6. 26(金) 13:00～17:00

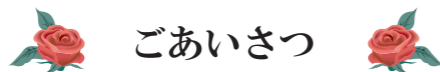
27(土) 10:30～17:00

28(日) 10:30～16:00

会場：切手の博物館 3F

主催：日本郵趣協会 植物切手研究会





ごあいさつ

今年の企画展示のテーマはバラです。花を描いた切手のなかで、最も多くの国・地域から発行されているのがバラです。野生バラから品種改良された園芸品種のバラ、文化・芸術のモチーフとして親しまれてきたバラなど、「花の女王」に相応しいバラの豊かさを味わってください。本作品に加えて、桜やボタンをテーマにした作品、植物の生育地域・環境に着目した作品など、10名13作品を展示しています。

〈不思議な魅力あふれる—超ミニ植物園〉をお楽しみ下さい。

植物切手研究会 代表世話人 嘉ノ海暁子

1 花の女王バラ (5フレーム) 奥田重俊 【企画展示】

花の女王として知られるバラは切手の図案にも多数採用されています。本作品は、まず自生種と香水などの利用について触れ、各国のバラ切手と国際的な博覧会についてセットやFDCなどで紹介しています。次に、人との関わりとして、著名人とバラ、ボタニカルアートや絵画、切手展のバラなどを示しました。さらに、バラの象徴として戦争と平和、社会福祉、愛にまつわる図案を集めています。

2 桜を楽しむ—切手が語る桜の世界 (3フレーム) 羽賀正雄

【STAMP-SHOW2026/ 企画展示】

サクラへの思いは様ざまですが、桜は私たちの日常に溶け込んでいます。本作品は、この様な「さくらの世界」を切手に語らせています。構成は、サクラの品種、さくらの風景・名木など桜学基礎に触れたうえで、花見、さくら展、サクラの便りなど人とサクラとの触れ合いを語り、最後に桜の次世代への継承をアピールしています。

3 春を呼ぶ使者・サクラ (1フレーム) 宝田嘉久雄 【STAMP-SHOW2026/ 企画展示】

麗らかな春に、麗らかに咲く花、それがこのサクラ。“咲く”“麗らか”からサクラの名になったとも言われる。サクラは古くから日本人に寄り添う春を呼ぶ使者。サクラが満開になると日本人の多くサクラの名所へ花見に訪れるため、花見は日本人の年中行事と言っても過言ではありません。切手を通して美しいサクラをご紹介します。

4 歌の中の花・植物 (1フレーム) 横谷一宏

懐かしい流行歌やヒット曲の歌詞には、花や植物が出てくるものがあります。約100年にわたる曲の歌詞を口ずさみながら、花や植物について切手などで紹介します。

5 ボタン科と人との関わり (2フレーム) 大畑紀子 【STAMP-SHOW2026 出品】

ボタン科は一科一属で、ボタン(木本性)とシヤクヤク(草本性)に分かれます。どちらも豪華な花を咲かせるので、当初の薬草としてより、鑑賞用の花として二千年来愛でられてきました。中国では花王とよばれ、清から民国初期まで国花とされ、今でも中国のシンボルとなっています。日本では「立てばシヤクヤク、坐ればボタン」と美人にたとえられます。その美しさは詩歌や絵画、陶磁器、着物等の工芸品にも表現されてきました。

6 アフリカの植物を巡る (3フレーム) 宝田嘉久雄

アフリカの植物は、その環境の厳しさと美しさを反映した、非常に個性的な植物が多いのが特徴です。広大な砂漠、乾燥したサバンナ、熱帯雨林、高山地帯など多様な気候帯を持ち、世界で最もユニークで多様な植物群が生育する所です。アフリカ54の国・地域を5つの地域、北(6)、東(14)、西(15)、中部(9)、南部(10)に分けて、一般の植物、ラン、果物を巡ってみました。

7 琉球の植物 —生き物を育み、人々を支える— (5フレーム) 【JAPEX2025 出品】 嘉ノ海暁子

九州島と台湾島の間約1200キロの洋上には200を超える島々が弧状に連なり、琉球列島(琉球弧)を形成しています。本展示では第1章と第2章において琉球弧の植物相とそれら植物に育まれて生きる生き物を紹介します。さらに、琉球の島々に根付いた多彩な観賞用植物(第3章)と、琉球の人々の生活・文化と植物の関わり(第4章)へと展開します。

8 海および隣接地域の植物 (1フレーム) 立川賢一

海域や汽水域、またそれらに隣接する地域の植物は、淡水域や陸域とは異なる海の環境特性、とりわけ高い塩分環境に囲まれて生長し、増殖しています。実際、どのような植物が海とのつながりで分布しているのか、大変興味を持ちました。展示では、気候帯による区分はしないで、生育地を海域、汽水域、海浜や海岸に大まかに区分し、それらの地域に生育している植物をまとめて配列しました。

9 世界のキノコ図鑑—帽菌亜綱のキノコ (2) (3フレーム) 山田昌弘

キノコ図案の切手で最も多く発行されている帽菌亜綱(ハラタケ目、ヒダナシタケ目)の切手を紹介します。昨年に引き続き、今回はハラタケ目のうちF-15(イグチ科)～F-104(スエヒロタケ科)のキノコ切手をまとめ、次いでヒダナシタケ目に分類されるキノコ切手を紹介します。

10 EXPO—国際園芸博覧会の歩み (1フレーム) 嘉ノ海暁子

大規模な国際園芸博覧会は1960年にオランダで始まり、ヨーロッパを中心に発展してきました。アジアで開催されたのは1990年に大阪で開催された国際花と緑の博覧会が最初で、その後アジア各国にも広まりました。来年には日本で2回目となるGREEN×EXPO2027が横浜で開催されます。開催国から発行された記念の切手や消印を用いてその歩みを紹介します。

11 日本の花切手シリーズ (2フレーム) 藤吉敏 (招待作品)

日本の花切手は、1961年の郵便創業90年記念「花シリーズ」から始まり、季節の花が毎月発行され、その後も「高山植物」「四季の花」など花を題材にした切手が続きました。1990年からのふるさと切手で「都道府県の花」、及び地域の名所などと組み合わせた図案が登場しました。2000～2005年の東京都《四季の花》は後の花切手シリーズの先駆けとなり、現在は「花の彩り」シリーズが発行されています。